

保土ヶ谷公園のサッカー場は毎年、10月頃を天然芝の養生期間としており、約1か月間グラウンドの使用ができません。利用される皆様にとっては大変ご迷惑をお掛けしておりますが、より良いプレー環境を確保するための重要な作業を行っています。今回、この期間に行っている作業内容をご紹介します。

作業の話の前に、天然芝の特性についてお話します。天然芝には大きく分けて2種類、「暖地型芝生」と「寒地型芝生」があります。暖地型芝生は日本の暑さにも負けない芝ですが、秋が深まると表層の葉の部分が枯れ春まで休眠してしまいます。一般的な公園の芝生を想像していただけたらわかりやすいと思います。

それに対して寒地型芝生は、冬でも緑を保つ性質を持ちますが、夏の暑さや湿度には弱いという特性があります。そこで、暖地型芝生の生長が緩やかになる秋に寒地型芝生のタネを蒔き、生育することでお互い緑の状態をカバーしあって、グラウンドを一年中緑の状態で保てるのです（休眠している暖地型を保護する効果もあります）。この方法をウィンターオーバーシードといいます。保土ヶ谷公園のサッカー場では、この方法を取り入れており、毎年生育状況を見て準備と作業を行っています。播種（種まき）後の養生期間は一年中緑の芝生でプレーできるようにするための重要な期間となります。

続いてウィンターオーバーシードの作業をご紹介します。

・低刈り、バーチカルカット

種を蒔く前に、今ある芝（暖地型）を普段よりもずっと低く刈る作業を行います。また、専用の機械で芝生の根を断ち切り、同時に埋もれていた枯れ芝（サッチ）を掻き出すバーチカルカットを行います。こうすることで、この後蒔く寒地型芝生のタネがしっかり土と接し、発芽するようになります。

この作業の後、スノーパーという機械を使ってバーチカルカットで出た枯れ芝（サッチ）を回収していきます。



▲作業前の状態



▲作業後の状態

これで種まきの準備が整いました。次は播種、施肥、目砂散布をご紹介します。

・タネ蒔き（播種）、すり込み

寒地型芝生のペレニアルライグラスという種類の芝のタネを蒔きます。あらかじめ決めた間隔を一定速度で走り、タネが均等に散布されるように注意を払います。偏ってしまうとその後の芝生の状態に影響するので、緊張する作業です。



▲これ全部で 500 kg 以上！スーパーの米売り場のようです。

タネ蒔きが終わっても作業は終わりではありません。タネがしっかり地面に届くように、ブラシをつけた機械を走らせ芝生の中にすり込みます。



▲芝生の上にかかれた種が乗っています。

・施肥、散水

タネにしっかり養分を届けるために施肥（肥料散布）をしていきます。施肥の後はしっかりと散水して肥料を溶かします。



▲施肥の後は時間を空けて何度も散水します。

・目砂散布、すり込み

タネを覆うように目砂を散布します。砂は、激しい試合で転倒してもケガしないよう、小石や貝殻の入っていないきめ細かな砂を使用します。目砂散布の後は再びすり込みを行い、砂を均等に均していきます。



▲全体に薄く撒く砂も、撒く前はなかなかの量です。▲見かけは作業前とほぼ変わりありませんが、

タネ、肥料、目砂をしっかり撒いてあるので

一週間もすれば変化が見えてきます。

これでようやくウィンターオーバーシードの作業は終了です。といってもタネが芽吹き成長するまでに何度も散水をしたり、成長の悪いところにはタネを追い蒔きするなど、芝が育ちきるまで観察を続けながら追加の作業を随時していきます。

播種作業を行ってから一週間が経ちました。芝生の状況はどうなっているでしょうか。



▲播種直後

▲一週間後

一気にグラウンドの色が変わりました！もっと拡大して見てみます。



▲播種直後

▲一週間後

勢い良く伸びているのがよく分かりますね！一本取りだすとこんな感じです。



▲一つのタネから出た芽

細い葉がぐいーっと伸びて、タネの下にはちよろちよろと根っこも見えます。今は一枚の細い葉ですが、これがもう少し伸びて枝分かれするようになったら、初刈りを行います。

播種作業を行ってから二週間が経ちました。芝生の状況はどうなっているでしょうか。



▲播種直後

▲一週間後

▲二週間後

色が一層濃くなりました！元のラインは、もう完全に見えなくなってしまいました。



▲播種直後

▲一週間後

▲二週間後

長さも一週間前の倍近く伸びています。背景の木々が隠れてしまうほどです。

今年は気候も水分も成長には十分でしたので、このタイミングで初刈りをします。



▲左：刈込み後

右：刈込み前

▲刈込み前

▲刈込み後

刈込むと長さが半分ほどになりました。



刈込みの方向で縞模様ができます。次はいよいよ養生期間明けに向けての準備です。

初刈りから何回か刈り込みを繰り返し、寒地型芝生も成長し密度が濃くなってきました。最終週の本日はライン引きを行います。



▲ラインのガイドロープを張ります ▲近くで見たところ。両壁のフックから
まっすぐロープを張ります

ロープを張ったら、芝生用ペンキをラインカーに入れてラインを引いていきます。

以前のラインはすっかり消えていますから、ガイドロープだけが頼りです。ロープから離れたりロープを押ししたりしないように慎重にラインカーを進めます。



▲ラインカーはいつも緊張 ▲まっさらな芝生にラインが ▲コーナーから〇m等、計測
しますがこの時は格別です。 引かれていきます。 しながら印を打ちます。



▲ライン引き前 ▲ライン引き後 ▲コーナーから

ビシッとラインが引けました！あと数日で養生期間も終わりです。お待ちいただいた皆様ありがとうございます。これで冬も緑の芝を維持することができます。皆さまにとって気持ちのいいプレーができますように！